

日本経済新聞

年間10万人が手術を受ける「人工関節」が進化

2012/6/22付 | 日本経済新聞 夕刊

「関節が痛くて歩くのがつらい」「曲げ伸ばしするのが大変で日常生活に支障が出る」——。こんな膝や股関節の症状の主な治療法が「人工関節」だ。高齢者を中心に、年間10万人以上の手術実績がある。外出が困難だった人が旅行ができるまで回復するなど、「生活の質の大幅な改善が期待できる」と専門家は指摘している。

大阪府堺市に住む70歳代のA子さんは、歩くと膝に強い痛みを感じ、100メートルも進めなかった。そこで近くの阪和第二泉北病院を受診したところ、高齢女性に多くみられる「変形性膝関節症」と診断された。

■半年後には海外旅行も

痛みの原因は、膝関節でクッションの役割を果たしていた軟骨がすり減って硬い骨同士が直接ぶつかり合っていたため。そこで、膝を人工関節に置き換える手術を受けた。痛みが消え、O脚も治った。半年後には海外旅行に出かけられるまでに回復した。「この手術で痛みはほぼゼロになる。介護士の仕事に復帰した人もいる」と、同病院の阪和人工関節センター長を務める格谷義徳医師は話す。



膝の人工関節手術前(左写真)と手術後のエックス線画像。関節の特定部分に負担がかかる原因だったO脚も治っている様子が分かる(阪大の菅本教授提供)



人工股関節(京セラメディカル提供)

人工関節の対象になるのは、変形性膝関節症や関節リウマチなどで膝の関節が痛むケース。股関節の軟骨がすり減り強い痛みを感じる「変形性股関節症」の患者なども対象だ。

こうした病気は女性に多いのが特徴で、阪和第二泉北病院では膝、股関節ともに患者の9割を女性が占めている。股関節の患者は平均で60歳代、膝は70歳代。いずれも症状が進行している場合、手術をすすめるケースが多いという。

手術では骨の損傷した面を取り除き、金属や樹脂でできた人工関節に置き換えるのが基本。手術時間はいずれも1時間半ほどで済む。手術後、麻酔が切れてから起きる痛みも神経ブロック注射などで多くは抑えられるという。

リハビリなどのために3~4週間入院した後、社会復帰できる。高い確率で痛みが消え、歩力も改善する。軽い運動などもできるようになる。京都大学の松田秀一教授によると、人工関節の手術は膝で年間約7万人、股関節で約5万人が受けている。

ただ注意もいくつかある。虫歯がある人は前もって治療しておく。体力もできるだけ維持した

